

世界に羽ばたけ！ 米山学友⑰

日本人からもらった翼



ネパール首相の通訳を務めるタパさん（写真・奥右端）

タパさんは心に誓いました。

“心”がない日本に失望して

村の人々に見送られ、大学生として再来日したのは桜が美しい2000年4月。しかし、待っていたのは、便利さと引き換えの孤独でした。電車に乗れば自動のアナウンスが流れ、店員は機械のように同じセリフを繰り返すだけ。近所の子どもに話しかければ、親が警戒心もあらわに子どもの手を引っ張り、去っていき

ました。日本語を話せるのに、一言も話せない……。「日本には“心”がない」。大きな失望感に包まれました。

「待っているだけじゃ何も起きないよ」。教授の助言を受け、思い切って近所の小学校へ手紙を書きました。「私はネパールから来た留学生です。よかったら、学校に呼んでくださいませんか?」。数か月後、教室でネパールの踊りを教えるタパさんの姿がありました。

再び桜の季節、近所の親子連れから花見に誘われたタパさんに、保護者はこんなお願いをしました。「タパくん、子どもたちを連れて先に公園へ行っていてくださる?」。僕が、子どもたちを? 感激が全身を貫きました。ようやく日本の一員になれた、そう感じた瞬間でした。

日本に来て驚いたのは、これほどモノがあふれているのに、皆が幸せを感じていないことでした。勉強したいと思えば本も学校もあり、昼間から電気が使える。何でもできる環境がどれほど恵まれたことなのかを、世界の実情を、もっと若い人に知ってもらいたい。タパさんは全国を駆けめぐり、これまでに20万人以上の児童・生徒に講演を行っています。

ネパール政府の通訳としても活躍

公式通訳に^{ぼってき}抜擢されたきっかけは04年。横浜国立大学大学院在学中のタパさんがある式典に参加した際、日本人もいる会場で、在日ネパール人たちが母国語で話す

日本との出会いは6歳のとき。青年海外協力隊でネパールへ赴任してきた「イシヅカ」という日本人が、自宅にホームステイすることになったのです。家族は皆忙しく、行動を共にしたのは7人兄弟の末っ子のタパさん。イシヅカさんから教わった日本の歌を口ずさみながらヤギの世話をし、日の丸がついた自転車で村を案内しました。世界で活躍する日本人の姿は少年の目にまぶしく映り、共に過ごした日々は鮮烈な印象を残しました。

イシヅカさんのように世界で羽ばたきたい

タパ家は過去に首相を出したほどの名家ですが、経済的には裕福でなく、幼いころから毎朝水くみに行き、もったいないと叱られながら灯油ランプの明かりで宿題をする日々でした。高校生のときに母が他界。その後は父と2人の生活でしたが、自分の将来を真剣に考える中で脳裏に浮かんだのは、イシヅカさんの姿でした。彼のように世界で羽ばたきたい、日本に行ってみよう――。

願いがかなったのは1999年。ネパールの日本語弁論大会で最優秀賞を受賞、訪日する要人の通訳として随行することになったのです。20歳のタパさんにとって、日本は初めて目にするものばかり。特に、自動販売機から飲料が出てきたときの驚きは、今も鮮明です。ただし、政府高官レベルの会話は難解で、通訳としては全く力不足でした。「日本に留学してもっと勉強しなければ」。タ

駐日ネパール大使の公務や、ネパールから来日した政府要人と日本人との会談に必ず出席している青年、それが、「ネパール政府公式通訳者」の肩書をもつ米山学友、ジギャン・クマル・タパさんです。日本語をよく理解し、的確に訳していく力量は、日本とネパールの双方から絶対的な信頼を得ています。近年では、テレビの情報番組に出演するなど、メディアを通じた知名度も高まっています。



光景に違和感を覚え、思わず通訳を買って出ました。それを見た大使館スタッフから、駐日ネパール大使の正式な通訳者として仕事を依頼されるようになったのです。

今では大使はもとより、ネパール首相や大臣が来日した際、タパさんは欠かせない存在となっています。一方、知らない病院から「ネパール人患者の通訳をしてくれないか」と依頼され、無報酬で引き受けることも。どんな仕事でも「ありがとう」という一言、自分が役に立てたという実感が、タパさんを次の仕事へと向かわせます。

米山記念奨学生になったのは、横浜国立大学大学院博士課程3年生のとき。世話クラブは、横浜たまロータリークラブでした。当時クラブ会長だった石井忠信氏は「タパ君はクラブの人気者。ユーモアを交えたスピーチも上手で、私の会長あいさつがやりづらかったほど」と、苦笑します。タパさんも「奨学生になって日本の見方が変わりました。これほど多くの人が毎週集まり、社会や世界のことを考えて行動していることを初めて知りました」と、話します。

将来の夢は駐日ネパール大使

王制が廃止されたネパールでは現在、新憲法の制定と、民法をはじめとする基本法の改正に向けて作業が進められています。この民法起草を支援するJICA（国際協力機構）から指名を受け、タパさんはネパールの法整備にも協力。通訳だけでなく、ネパールの国づくりにもか

プロフィール

ジギャン・クマル・タパさん

(2008 - 09 / 横浜たまRC) ネパール・ダパケル村生まれ。秀明大学卒業後、横浜国立大学大学院に進学。現在、(財)かながわ国際交流財団勤務の傍ら、博士論文を執筆中。専門は行政。駐日ネパール国大使館通訳、NHK国際ニュース翻訳ほか兼務。2010年、全国大使館員日本語スピーチコンテスト最優秀賞。



かわっていききたいとの思いが強くなっています。

「将来の夢はたくさんあります。まずは駐日ネパール大使。それに、これまで日本の皆さんに育てていただいたので、ネパールで国際理解など今の時代に必要な学問を教える教育者にもなりたいし、ネパールの地方自治体の仕組みもつくりたい。でもその前に、博士号を取って世話クラブの皆さんに晴れ姿を見せないとね(笑)」

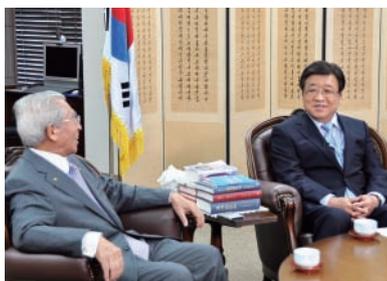
ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281

Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

駐日韓国大使へのインタビューを動画配信！



板橋敏雄理事長と談笑する韓大使(右)

米山記念奨学会では今夏、米山学友で2人目の駐日韓国大使となったクオン Cholヒョン 権哲賢氏(1984 - 87 / 佐野東RC)へのインタビューを実施。多忙な公務の中、ご協力くださった韓大使からは、世話クラブのロータリアンとの心温まる交流のエピソードや、ロータリーとの出会いが人生にどのような影響を与えたかなど、多くを語っていただきました。「ロータリークラブを通して、日本社会を理解したことが大きな力となった。韓日関係を“近くて遠い”から“近くて近い”に変えることが恩返し」と語る韓大使。米山記念奨学会ホームページではこのインタビューの様子を収録し、動画配信しています。ぜひご覧ください。 <http://www.rotary-yoneyama.or.jp>